

## 正当化：愛の奴隷は勝利を目指して戦う

OICさん、おはようございます。

今日は、ローマ人への手紙 6 章が、キリストと結ばれるとはどういうことかをより深く理解するためにどのように教えているかを見ていきたいと思います。しかしその前に、先週の日曜日のメッセージの要点を復習することから始めたいと思います。(ローマ人への手紙 6.4 章)からの引用です。したがって、私たちは死へのバプテスマによってキリストとともに葬られました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活されたのと同じです。 私たちも新たな人生を歩むかもしれません。クリスチャンは自分自身が罪に対して死んだものであると考えたり、考えたりすることができます。信仰によって自分たちがキリストとともに葬られ、罪に対して死んでいると考えること、あるいは見なすことは、クリスチャンの古い性質に対する大きな武器となります。それが私たちの心の中で音を立てるとき、私たちはそれに従う必要はありません。聖霊は、私たちが罪に対して死んだことを信じられるようにしてください。したがって、私たちはどのようにして罪の中で生き続けることができるのでしょうか、あるいはなぜ罪の中で生き続けるのでしょうか。

ローマ 6.5 なぜなら、もし私たちが神の死に似て神と一体になったなら、確かに私たちは神の復活にも似ているはずだからです。

パウロは私たちの未来、それは神のみぞ知る遠い未来であると指摘しています。主の復活に似ているということは、私たちが墓から復活することを意味します。復活したイエスのような存在とはどのようなものですか？ 神の天使の言葉(黙示録 2.18)によって、私たちがどのようになるかがわかります。「そしてティアティラの教会の天使にこう書きなさい。炎のような目を持ち、その足は磨かれた青銅のような神の子はこう言います。

愛する皆さん、今私たちは神の子ですが、私たちがどのようになるのかはまだ明らかになっていません。私たちは、神が現われるとき、私たちが神のようになることを知っています。なぜなら、私たちは神をありのままに見るからです。神がすべてのクリスチャンに約束されたこと(1ヨハネ 3.2)を読んでみましょう。

私たちクリスチャンは、日本におけるサタンの影響力に身を縮めるとき、なんと愚かに見えることが多いでしょう。私たちの日本にいる経験豊富な牧師の友人は、私たちが初めて日本を訪れた際、彼の教会で奉仕していたとき、こう言いました。「クリスチャンが日本に上陸するたびに、悪魔は恐怖で震えているのです！」彼はこの事実を私たちに、私たちが日本を目指す際に起こると知っていた霊的戦いに備えるために私たちに語った。悪魔は私たちよりも、私たちがすでに「神の子」であること、そして間もなく「イエスのようになる」ことを理解していると私は信じています。

ローマ人への手紙 6.6-7... 私たちの古い自分が神とともに十字架につけられたことを知っているのは、私たちの罪の体を取り除かれ、もはや罪の奴隷ではなくなるためです。7 死んだ人は罪から解放されるからです。

ここでパウロは、クリスチャンはキリストとともに埋葬されたと繰り返し述べています。これは、(上記のローマ人への手紙 6.4 章)と同様、罪がクリスチャンを襲い始めたときに、クリスチャンにとって強力な教えとなります。私たちの古い自分はイエスとともに十字架につけられたので、私たちの罪の体は取り除くことができます。また、パウロが私たちの**肉体ではなく罪の体**について述べたように、クリスチャンはこの世の生活に関して常に禁欲的でなければならないと決して教えなかったことも重要です。イエスは典型的なユダヤ料理でワインを飲んだため、大酒飲みとして非難されていた。

人の子が食べたり飲んだりしてやって来た、そしてあなたは言う、「見よ、この人は大食漢で酒飲みで、徴税人や悪名高い罪人の友人だ」。

彼は結婚式の祝宴で水からワインを造ったこともありました。(ルカ 2.7-9) では、

7 イエスは彼らに言われた、「水かめに水を入れなさい」。それで彼らはそれらを縁まで満たしました。8 そこでイエスは彼らに言われた、「今すぐ取り出して給仕長のところへ持って行きなさい」。そこで彼らはそれを彼に持ち帰った。9 給仕長がワインになった水を味見したとき、それがどこから来たのかわかりませんでした(しかし、水を汲んだ使用人たちは知っていました)。

今日、私たちは聖霊がグノーシス主義の霊ではないことを覚えておく必要があります。グノーシス主義 / グノーシス主義者は、神は霊であり聖であると信じていますが、**純粋に霊ではないすべてのもの、人間の体を含むすべての物質的なものは悪であると信じています**。したがって、彼らはイエスが肉体、つまり人間の体で来られたことを受け入れることを拒否します。

牧師テモテの指導者である使徒パウロは、教会の富裕層に対するテモテの指示について懸念していました。彼はテモテに次のように教えました(1テモテ 6:17/AMPC)。この世で富んでいる者たちに、命じなさい。高慢にならず、たよりにならない富に望みをおかず、むしろ、わたしたちにすべての物を豊かに備えて楽しませて下さる神に、のぞみをおくように、[私たちの]楽しみのためにすべてを提供します。神は人類、特に新しく生まれ変わった子供たちを祝福するために、エデンの園から得た祝福されたものを今でも日常生活に保管しています。

今日の世界において、人類に対する奴隷制は恐ろしいことです。罪の奴隷状態はさらに悪いです！この邪悪な主人は、キリストにあるあなたの霊的な命、つまり命そのものを食い荒らそうとしています。神は、**悪役である罪を克服し、私たちの罪の体が死んだものとみなす信仰**を与えてくださいました。

私が幼い頃、母は叔父が叔母と一緒に休暇に行ったときに電話番の仕事をしていました。彼のビジネス電話は昼夜を問わず鳴る可能性があるため、彼女は彼らのアパートに住まなければなりませんでした。私は自分の世話をするには若すぎたので、母と一緒に暮らしました。そして父はほとんど毎週60~70時間働いていました。昼も夜も電話が鳴ったのは、叔父が葬儀ディレクターまたは葬儀業者だったからです。もちろん、叔父と叔母の広いアパートで遊ぶのが大好きでした。私はおもちゃの車やトラックをあちこち運転して、秘書が座ってタイプを打っているオフィスまで行きました。スタッフの方に歓迎していただきました。そうですね、ある日、私は小さなおもちゃを運転して、テーブルの上に仰向けに横たわっている死んだ人、死体がいる開いた部屋に行きました。「あれは死んだひとだ、と私は心の中で言いました。ここでおもちゃを運転するのは失礼だと思います。」**補足**：子供たちは、親が恐れることを教えない限り、多くのもの、たとえ死体であっても恐れません。**しかし**：今日

の私の重要な点は、私がおもちゃの車を運転して死んだ人に近づいたことをまったく気にしていなかったということです。誰かが彼に違法薬物を勧めても、彼はそれを飲みません。たとえボルノ写真が目の前に置かれても、彼は情欲の罪を犯さないだろう。彼は死んだのです...そして私たちも**信仰**によって死んだのです。パウロが次に（ローマ人への手紙 6.7）で言っているように、**死んだ人は罪から解放されているからです。クリスチャンの皆さん、聖霊の助けがあれば、私が叔父の葬儀場で小さな車で遊んでいたときに見たあの人と同じように、あなたも罪に対して死ぬことができます。**

## 要点 #1

キリストのために生きることは、聖なる生活を送るとき、神の物質的な賜物を強化します。私たちは、自分自身が罪に対して死んだもの、古い自分、自分の罪深い本性、まさに葬儀場の死体と同じように罪に対して死んだものであると考えることができます。これには神の助けを求める祈りが必要かもしれませんが、これが勝利の約束であることを知ると、神がそれを実現させてくださるという励みになります。

これは、私たちが復活される前に死んだキリストと結びついているので、人生における罪や人生に勝利を収めるための素晴らしい真理です。さらに素晴らしいのは、私たちの輝かしい未来、そして私たちが復活されたキリストと結ばれることです。朗読（ローマ人への手紙 6.8 & 9）**8** もしわたしたちが、キリストと共に死んだなら、また彼と共に生きることを信じる。

**9** キリストは死人の中からよみがえらされて、もはや死ぬことがなく、死はもはや彼を支配しないことを、知っているからである。

私たちはすでに内住の聖霊によってイエスとともに生きています。信仰によってイエスとともに死んだことを受け入れるとき、私たちはまたイエスとともに生きると信じることができますでしょう。

**朗読 v.10** イエスが死んだのは、罪に対して一度だけ死んだことです。しかし、彼の生きる人生は、神に対して生きています。私は、「増補聖書翻訳」（AMPC）に追加された詳細が気に入っています。**10** なぜなら、イエスが死んだということは、罪に対して死んだこと[罪との関係を終わらせた]ことだからです。そして彼の生きる人生は、神に対して[**神との途切れることのない交わりの中で**]生きています。

イエスは生きておられるのです！他の人工宗教には指導者が亡くなっています...私たちの宗教は健在です.....永遠に！彼は神に対して生きています...そして神は無限の愛、肉体の命を上回る愛で私たちを愛してくださっています。詩編作者は次のように書いています。

(詩篇 63.2-4/AKJV)

**2** あなたの力と栄光を見るために、  
私が聖所であなたを見たときと同じです。

**3** あなたの慈しみは命よりも優れているので、  
私の唇はあなたを賛美します。

**4** 私は生きていて、こうしてあなたを祝福します。  
あなたの御名において手を上げます。

イエスは神との途切れることのない交わりを持っており、私たちもそれが可能です。もちろん、私たちはまだ神の子ではないので、私たちの途切れることのない交わりは、神が私たちをイエスとのより

緊密な歩みに呼び戻されることに大きく依存しています。しかし、途切れることのない交わりは、それを最も望む人によって最も経験される、と言うのは、信仰から信仰に生きるという教えです。イエスをもっと求めることは、まさに神からの贈り物です。これは（1Chronicles 16.11/ AMPC）**主とその力を求めなさい**によって確認されています。**神の御顔を切望し、求め、絶えず神の臨在の中**にいることを望みましょう。

「満足」という古い賛美歌に次のような言葉があります。

ハレルヤ、私は彼を見つけました、  
私の魂が長い間切望していた人、  
イエスは私の切望を満たしてくださいます。  
彼の血によって私は今救われています。」

この賛美歌は、罪人がイエスを見つけた後の深い満足感を表現しています。実際、イエスが私たちを見つけてくれました。それを知ると、満足感がさらに高まり喜びにあふれます。しかし、私たちの主との途切れることのない交わりを持ちたいという願いは、私たちが新しく生まれる前とは異なる種類の主を求めることを意味します。それはまさに、私たちの主イエスとの途切れることのない交わりへの願いです。それは罰を恐れる感覚はありませんが、配偶者または妻として夫を望んでいます。

（雅歌 7.10）では、わたしはわが愛する人のもの、彼はわたしを恋慕う。

そして、新約聖書には次のように書かれています（エペソ人への手紙 5.31、創世記 2.24 を引用）：

**31** こういうわけで、人は父と母を離れて妻と結ばれ、二人は一つの肉体となる。 **32** この謎は素晴らしいです。しかし、私はキリストと教会に言及して話しています。

パウロは良き教師として、ローマ教会への手紙（ローマ人への手紙 6.11）の最後の文の要約を、次のフレーズで私たちに示しています。このように、あなたがた自身も、罪に対して死んだ者であり、キリスト・イエスにあって神に生きている者であることを、認むべきである。

## 要点#2

クリスチャンは、自分たちの古い罪深い本性を十字架につけるために、ストイックで自傷行為をする人である必要はありません。聖霊はグノーシスの霊ではありません。

**罪への死 - 私たちの古い邪悪な性質に対する勝利 -**

**キリストのうちに生きています - イエスが私たちが配偶者として愛していることを受け入れ、間もなく天国で結婚の儀式が完了します。**

さて、（ローマ人への手紙 6.12）については、「義認：神との友」というタイトルの私の前回のメッセージ（ローマ人への手紙 5.11-6.5）の中での私の例えを参照させてください。「2つの市民権と2人の王という私のたとえは、{王} アダムが1つの罪によって、多くの{罪を犯した彼の国民}を死が支配する原因となったことに当てはまります。しかし、王イエスは、たった一つの義の行為（十字架）によって、その国民（教会）に義の賜物、罪と死への勝利、神との正しい関係、そして新しい命をもたらすことを今統治しています。神との正しい関係においては、『神は私たちが友達と呼んでくれます』。」

（ローマ 6.12）**12** だから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の**支配**にゆだねて、その情欲に従わせることをせず、**13** また、あなたがたの肢体を不義の武器として罪にささげてはならない。むしろ、死人の中から生かされた者として、自分自身を神にささげ、自分の肢体を義の武器として神にささげる

がよい。

ここで、「統治」というキーワードが、「あなたの王は誰ですか?」という質問を強制したり、問いかけたりしています。

それは罪（アダム王）ですか、それとも義（天地の王イエス）ですか。私たちの罪深い体は、罪の結果として死ななければなりません。私たちの罪深い体の活動は依然として聖なる生活を行うことができます。私たちには、私たちの肉体、ここ地球、定命の体に君臨する王のために、肉体を超えて意志を行使するという選択肢があります。私たちを助けるには、神が私たちに与えてくださった助け手である聖霊が必要です。しかし、パウロは、罪深い欲望や情欲よりも王イエスを選ぶのが私たちの責任であることを明確にしています。この責任は、私たちの許し、私たちの義認のために死んだ神に対する単純な愛の応答です。

不正または正義の道具...同様に、道具の例をいくつか挙げます。ナイフなどの道具は、熟練した外科医の手で食事を準備したり治療するために使用されることがあります。これと同じ道具が殺人に頻繁に使用されます... または人間の声を含む楽器: 私たちの礼拝チームはイエスに喜ばれる音楽を作ります。邪悪で罪深い言葉に満ちた音楽を聴くのに遠くを見る必要はありません。私たちの肉体のあらゆる部分は、今や神の栄光のための道具となることを意図されています。

**ローマ人への手紙 6.14** なぜなら、あなたがたは律法の下にあるのではなく、恵みの下にあるので、**罪に支配される**ことはないからである。パウロが書いた原文のギリシャ語では、「あなたの主人」という言葉は、キュリオスまたは主という言葉から来た単語です。

私たちは今、サタンが蛇に取り憑いて、イブを誘惑して善悪の知識の木の実を取り、それによって世界に罪をもたらしたことを思い出すべきです（創世記 3.3-4）。**1** 主なる神が造られた野の生き物のうちで、最も賢いのは蛇であった。蛇は女に言った。

「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」

**2** 女は蛇に答えた。「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。**3**でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。」**4** 蛇は女に言った。「決して死ぬことはない!

罪をあなたの王であり主人として選ぶということは、単に「アダム王」を選ぶということではなく、実際には、昔の蛇であるサタンをあなたの主として選ぶということなのです。神とパウロがローマのクリスチャンたちに、罪に支配させないように（ローマ人への手紙 6.4）、主人または主（ローマ人への手紙 6.14）にしてはならないと指示したとき、このことが神とパウロの心の中にあったと私は確信しています。

イエスが現れて以来、サタンは罪人たち、さらにはキリスト教徒さえも「主よ!!!!」として自分に服従させようと、神に対して嫉妬深い闘争を続けています。

次にパウロはローマ人たちに、罪に対して勝利を収めるよう励まします。彼らに対する彼の確信は、彼自身と同様に、神の律法を破った恐ろしい結果が救いをもたらさなかったということです。律法ではなく恵みの下にあることは、正義を選択する選択の自由という精神的な効果をもたらします。律法ではなく恵みの下にあることで、私たちは神聖な助け手である聖霊を受けることができ、全能の力で私たちの決定を助けてくれます。V.14のこの言葉は、「イエスを信じなさい!」という言葉です。

**ローマ人への手紙 6.15-16** **15**では、どうなのか。わたしたちは、律法の下ではなく恵みの下にいるのだから、罪を犯してよいということでしょうか。決してそうではない。**16** 知らないのですか。あな

たがたは、だれかに奴隷として従えば、その従っている人の奴隷となる。つまり、あなたがたは罪に仕える奴隷となって死に至るか、神に従順に仕える奴隷となって義に至るか、どちらかなのです。

したがって、以前の手紙で述べたように、パウロは罪を犯すことを選んだ言い訳に対して、繰り返し勧告または激励しています。意図的に自分自身を罪に差し出すことは、実際には自分自身を「主」としてサタンに差し出すこととなります。なぜそうなるのでしょうか？なぜなら、私たちは依然として神の子であり、神の愛によって守られているにもかかわらず、罪の奴隷となることを故意に選択すると、サタンの支配に対してより脆弱になるからです。繰り返しますが、神は神を喜ばせようとする心を見ているのであり、罪深い欲望を十字架につけるための兵士であることや、敵であるサタンとの戦いを繰り返している私たちの弱さではありません。しかし、私が説教したいのは、「**祈りは勝利です**」ということです。

私たちが死ぬべき肉体を主イエスに差し出すために熱心に祈り続け、神との絶え間ない交わりを望むとき、神は私たちに従順を与え、義をもたらしてください。

**ローマ 6.17** しかし、あなたがたが罪の奴隷であったにもかかわらず、自分が熱心に取り組んできた教えに心から従順になったことは**神に感謝**します。 **18** そして**罪から解放**されて、**義の奴隷**となったのです。

パウロは賢明なことに、聖霊が彼の中に神の言葉を吹き込むと、私たちの**焦点**を私たちの弱さや罪から神に戻します。

しかし、**神に感謝**します。しかし、という言葉は、私たちの輝かしい未来につながる義認におけるこの意図と優先順位を示しています。英語では通常弱い単語ですが、ギリシャ語ではそうではありません。それは、神学と真実を正すために**重要な焦点**の転換を伝えます。

**神様に感謝**します。私たちが赦し、義とされるためにキリストの十字架を信じたとき、私たちに新しい心を与えてくださったのは神です。聖霊が私たちのかたくなな心を和らげてくださったので、私たちは悔い改めて、イエスの福音を信じて**心から**従うことができました。神は、あの輝かしい**再生の日**の後、**休暇**には行かれませんでした。神は主イエスを通して私たちの生活のあらゆる部分で活動し続けています。このようにして、私たちは聖霊による神の助けを信頼して、**罪から解放され、義の奴隷**となったように生きることができます。

**ローマ人への手紙 6.19** を一緒に読む … NASB 版では使徒はほとんど傲慢に聞こえます。彼はしばしば次のように大声で宣言しました（1 コリント 15.10）。しかし、**神の恵み**によって**私は今の私**であり、私に対する神の恵みは無駄ではありませんでした。しかし、私は彼ら全員よりもさらに苦勞しましたが、私ではなく、神の恵みが私とともにありました。

拡大されたバージョンでは、神の僕としての彼の本当の態度が捉えられています。

（**ローマ人への手紙 6.19 /AMPC**）**19** 私は、あなたが生まれながらにして**限界**があるため、よく知られた人間の言葉で話しています。なぜなら、あなたが自分の体の部分[と能力]を不純さとますます増大する不法に奉仕者として明け渡したように、今度はあなたの体の部分[と能力]を**義**(正しい存在と行い)[**聖化に導く**]奉仕者として一度きっぱり明け渡しなさい。

私たち自身の血肉、体の部分以上によく知っているものは何でしょうか？ 私は、Expositor's Bible Commentary (EBC) がこの聖句の真の意図を明らかにしているところが気に入っています。

「結局のところ、{ローマの}キリスト教徒は、「不純物」と「増え続ける邪悪」への奴隷制を特徴とする人生を経て生まれたばかりなのです。彼らがかつて罪に仕えたときの覚悟と熱意が、今では挑戦の

基礎となっています。確かに、新しい主人は少なくとも同等の忠誠心と献身に値するでしょう！その新しい主人は個人的な言葉ではなく、正義と神聖さ、つまり完全な注意を必要とするライフスタイルという擬人化された言葉で描かれています。」

上でも述べたように、私は、古い主人であるサタンと**新しい主人であるイエス**として、不義と義という二つの相反する道徳的選択を結びつけました。私たちは初期のローマが異教の世界でどれほど倒錯していたかを簡単に忘れてしまいます。パウロはローマ人への手紙 1 章でローマ人にこのことを思い出させていました。この EBC の引用で表現されているように、彼らが最近その生活から救われたことを考えるとき、彼は傲慢ではなく神の慈しみをもって語っています。

・・・結果として聖化される (v.19) 聖化とは、世から離れて主イエスのために定められた生き方を持つことを意味します。Born-Again クリスマンは生まれ変わったときに変化し、イエスに従いながら変化し続けます。

**(ローマ人への手紙 6.20-21)** 20 あなたがたは、罪の奴隷であったときは、義に対しては自由の身でした。21 では、そのころ、どんな実りがありましたか。あなたがたが今では恥ずかしいと思うものです。それらの行き着くところは、死にほかならない。

……義に関しては自由 パウロは、クリスマンの行動とは真逆の表現、あるいは視点や見解の変化を用いています。この欲望の逆転は、メッセージを私たちの心の中に明確に受け取ることです。罪人が罪の中に生きていたとき、彼らは義や、主を信じるすべての人の救い主である主イエスのことなど考えもせず、気にも留めませんでした。実際、よくあることですが、彼らは気楽に感じていました。しかし、感情はしばしば欺かれます。彼らは罪とサタンの奴隷であり、彼らが地獄に向かって突進する間、罪の中で安全であると感じさせてくれました。

パウロは、クリスマンがしばしば、とても心地よく感じた罪に引き戻されると感じていることを知っています。彼は、これらの罪に対する現在の恥辱を強調し、{受け入れられた生き方としての}罪の結果は{霊的な}死であると強調しています。

**(ローマ 6.22)** しかし、あなたがたは、今は罪から解放されて神の奴隷となり、聖なる生活の実を結んでいます。行き着くところは、永遠の命です。「でも」という素晴らしい言葉は、私たちを死から「今」という現実へと導きます。

パウロが想像上のユダヤ人のヤジや福音の反対者に話していた以前とは異なり、これらの章ではローマ教会を「あなたがた」と呼んでいます。彼は水のバプテスマについて書いたとき、「私たち」という代名詞を使用しました。したがって、彼は、教師、使徒、預言者、牧師としての自分の賜物が、神から元罪人に与えられたものであることを明確に認識していました。彼の救いに対する彼の自信は、この手紙、特に「**しかし今は**」の中で輝いています。次のフレーズは「**罪から解放され、神の奴隷となった**」です。自由とは、愛である神の奴隷であると再定義します。クリスマンは、イエスに近い地上での生活と永遠に続く天国への輝かしい入り口という、戦う価値のある何かを持った「**愛の奴隷**」です。

(ヨハネ第一 4.8) **愛さない人は神を知りません。神は愛だからです。** 罪とは反対に、神の「愛の奴隷」としてのこの関係により、クリスマンは聖化とその結果として永遠の命をもたらし恩恵を受けることとなります。

**要点 #1**

キリストのために生きることは、聖なる生活を送るとき、神の物質的な賜物を強化します。私たちは、自分自身が罪に対して死んだもの、古い自分、自分の罪深い本性、まさに葬儀場の死体と同じように罪に対して死んだものであると考えることができます。これには神の助けを求める祈りが必要かもしれませんが、これが勝利の約束であると知れば、神がそれを実現させてくださるといふ祈りが促されます。

#### 要点#2

クリスチャンは、自分たちの古い罪深い本性を十字架につけるために、ストイックに自傷行為をする人になる必要はありません。聖霊はグノーシス主義の霊ではありません。

罪に死に- 私たちの古い邪悪な性質に対する勝利 -

キリストのうちに生きています - イエスが私たちを配偶者として愛していることを受け入れ、間もなく天国で結婚の儀式が完了します。

#### 要点 #3

私たちが内なる罪や外なる悪霊と戦ったにもかかわらず、イエスはご自身の犠牲によって私たちに義とされました。私たちは今、罪から解放され、偉大な救い主イエスを賛美することができます。私たちは神の愛の奴隷になることを自由に選ぶことができます。神の聖霊は、私たちが神に喜ばれる人生を送れるようにし続け、聖化され、あるいは罪深い世界から切り離されて、栄光ある結果である永遠の命を得ることができるようになってくださいます。クリスチャンは神の「愛の奴隷」であり、そのために戦う価値のあるもの、つまりイエスに近い地上での生活と永遠に続く天国への栄光の入り口です。

私たちの礼拝チームが歌う次の賛美歌は、イエスの救いを讃美したいというチャールズ・ウェスリーの願いを見事に宣言しています。それに同意して歌いましょう、教会！

おお、千の舌のために……

祈りましょう:

私たちの神はとても慈悲深く力強いお方ですので、私たち全員に、御子イエス・キリストの御名において父なる神に栄光の天国への入場を願い求めていただきたいと思います。

#### 参考文献

{ } - わかりやすくするためにブルース牧師が追加したメモ

AKJV - 認定 (キング ジェームス) バージョン KJV は、英国のクラウンの特許権者である Cambridge University Press の許可を得て複製されています。

AMPC - 増補聖書、クラシック版

EBC - 解説者による聖書注釈 (要約版): 新約聖書

著作権 2004

NASB - 新しいアメリカ規格 - 1995 年版

NLT - 聖書、ニューリビング翻訳、著作権 © 1996、2004、2015 ティンデール ハウス財団。 Tyndale House Publishers, Inc. (イリノイ州キャロル ストリーム 60188) の許可により使用されています。

OED - オックスフォード英語辞典、オックスフォード大学出版局